地域おこし協力隊（地域担当）について

▼概要

臼杵市では高齢化率が40％を超えており、行政区の約1/3が小規模集落（人口の半分が65歳以上）となっています。この傾向は今後も続く見通しとなっていることから、高齢化率40％時代の地域づくりを行うとともに、人口減少に少しでも歯止めをかける取り組みが必要です。

　臼杵市では、こうした少子高齢化・人口減少を見据えた対策の一つとして、将来的に地域活動の中心を担っていく組織「地域振興協議会」を旧小学校区ごとに設置。令和2年11月現在、全ての小学校区に設置しました。

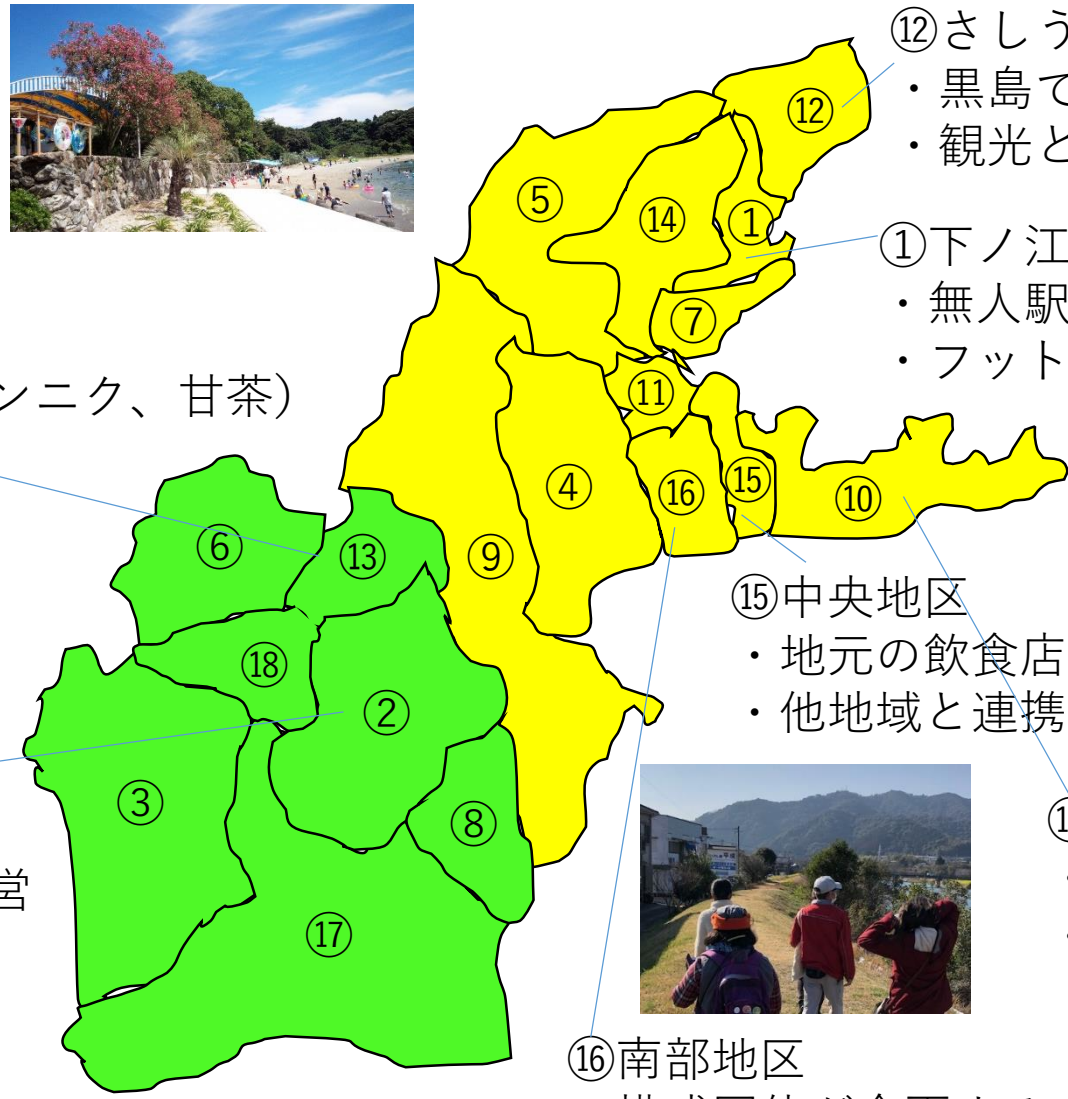
　しかし、高齢化の影響による地域活動の担い手や自主財源の不足、協議会同士の連携体制の構築など、まだまだ課題が多いのが現状。既存の人材や資源での解決を図るのはもちろん、地域団体の活動支援やコミュニティビジネスに強みや意欲を持った人材を地域おこし協力隊として新たに募集したいと考えています。

地域コミュニティの動向について

社会動向（全国）

・全国で約3,000の地域コミュニティが組織されている。
・活動内容は高齢者サービス5割、声掛け・見守り4割、その他。
・課題として活動の担い手不足をあげたのが8割。
・主な収入源は市町村からの補助金で自主財源の割合は少ない。
・地域コミュニティに期待される効果
　⇒暮らしを便利にする
　⇒住民に仕事や所得をもたらす
　⇒高齢者福祉の充実　など

地域振興協議会の取り組み例（臼杵市）



⑫さしう地区
・黒島でのレジャー開発
・観光と直売所を兼ねたコスモス、赤そば畑

①下ノ江地区
・無人駅を活かした立ち飲み食堂
・フットパス

⑬都松地区
・特産品開発（エゴマ、黒ニンニク、甘茶）

⑮中央地区
・地元の飲食店等と連携したフェスタ、コンサート
・他地域と連携する麺フェスタ～うまいもん市～

②田野地区
・農産物直販所「いのこ」運営

⑩上浦・深江地区
・大漁まつりやイルミネーション
・地引網体験の受け入れ、お魚教室

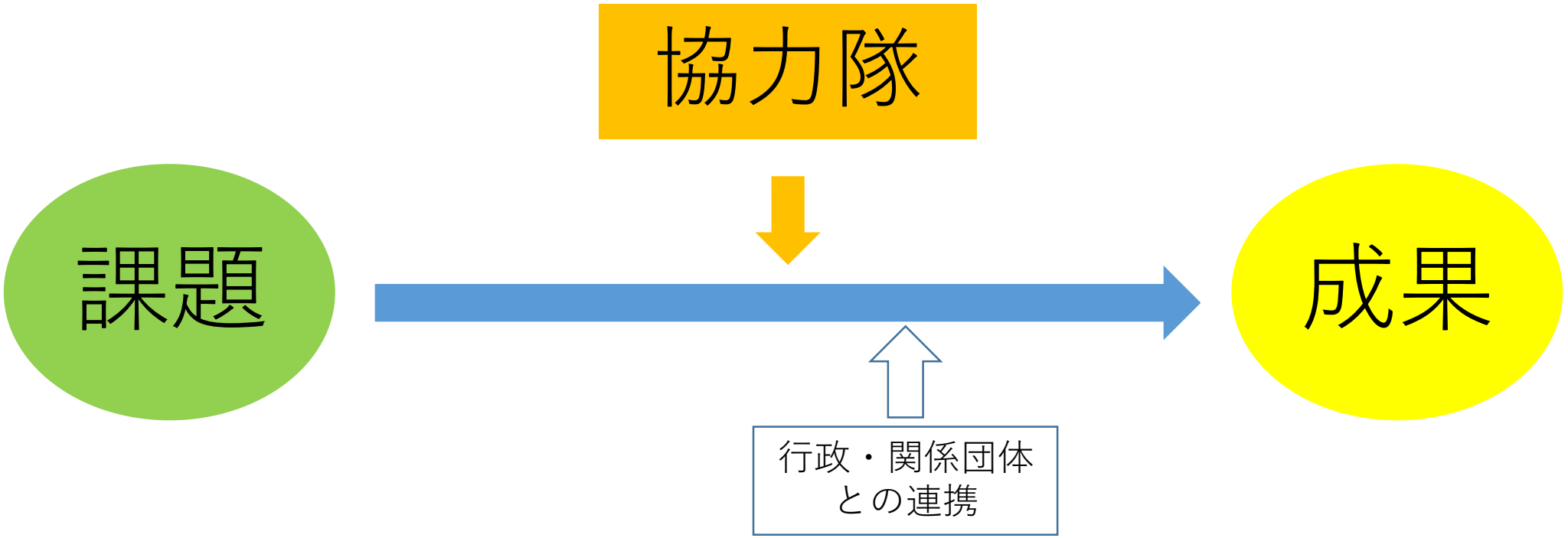
⑯南部地区
・構成団体が企画するフットパス全国大会の取り組み
・歴史的なまちなみや建造物を活かしたワークショップ

地域振興協議会の課題

地域資源を活かした取り組みが広がっているが、まだまだ人材不足。
自主財源の確保につなげるまでには課題が多い。

地域を横断的に動き各団体の活動支援や横の関係づくりを推進し、また、地域資源を活かしてコミュニティビジネス（自主財源の確保）に発展させることができるような人材が欲しい！

地域おこし協力隊について



▼課題
・地域活動の担い手不足
・自主財源が不足
・協議会間の連携体制が不十分
・協議会の関係団体の活動支援が必要

▼期待される成果
・後継者（卒業後の集落支援員）
・地域人材の巻き込み、発掘
・団体間の連携、横の関係づくり
・自主財源の確保（コミュニティビジネス）
・地域資源の利活用（フットパスなど）
・共助の取り組みの拡充　など

地域おこし協力隊について

▼地域おこし協力隊の募集について
ミッション　地域担当
　募集内容　企画提案型（地域資源を活かした事業）
　　人数　2名（予定）
　着任時期　令和3年4月（予定）

▼協力隊に求める人物像
◎地域になじみ、地域住民とコミュニケーションをとれる人
◎自分の強みと地域資源を活かした提案ができる人
〇コミュニティビジネスの経験がある人
〇地域団体の活動支援の経験がある人

3年間のロードマップ

1年目

・協働まちづくりＧｒに配属
　⇒地域担当と連携
・地域を覚えてもらう
　⇒イベント・事業に参加
・協議会の活動支援
・協力隊の研修に参加
　⇒情報収集
　⇒ネットワークづくり

2年目

・卒業後の進路を考え始める
・協議会の活動支援
・1年目を踏まえて事業提案
　⇒地域の改善
　⇒卒業後につながる事業づくり

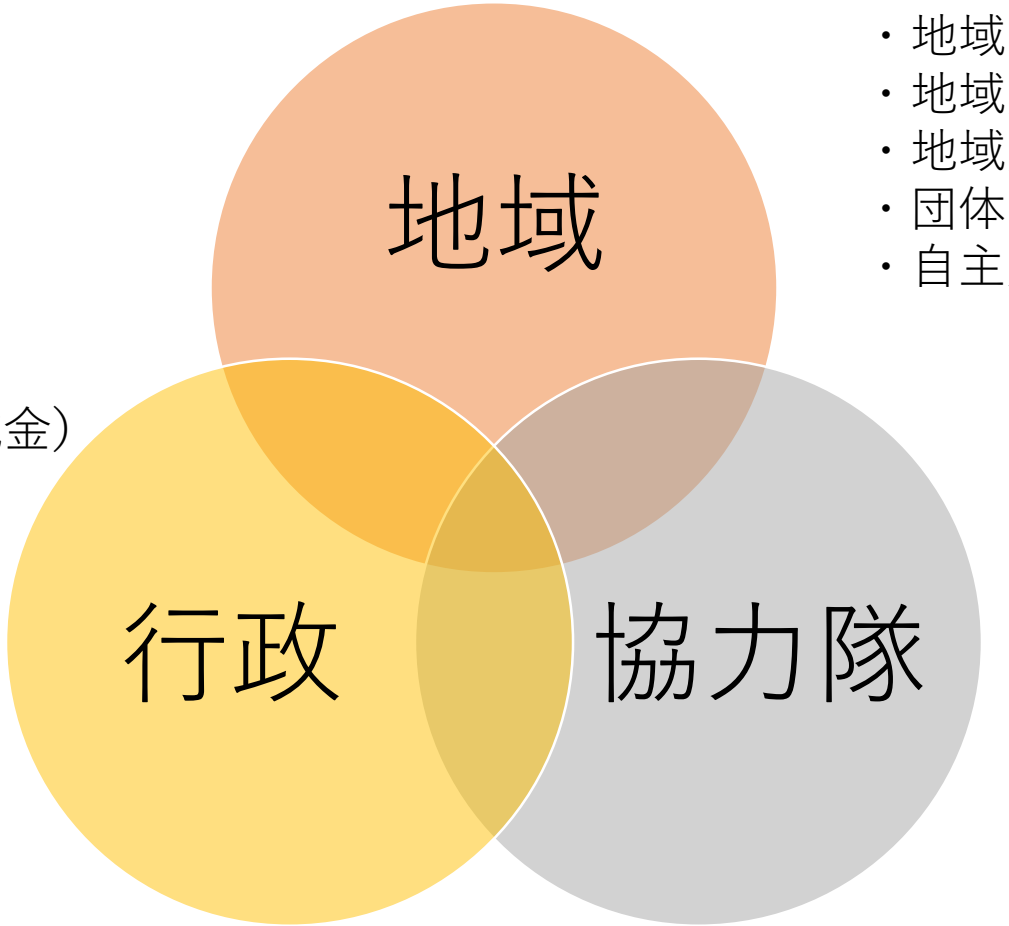
3年目

・卒業後の方向性を決める
　⇒就労（集落支援員など）
　⇒起業（コミュニティビジネス）
・協議会の活動支援
・1～2年目を踏まえて事業提案
　⇒地域の改善
　⇒卒業後につながる事業づくり

※地域のことをよく知らないまま、提案・改善を進めてしまうと上手くいかない可能性が高いので、1年目は特に地域との関係づくりに時間をかける。

連携体制

▼地域×行政
・事業提案、共同開催
・業務支援、情報交換
・財政支援（コミュニティ助成金）
・地域振興懇談会の開催
・地域バートナーの配置
・広報、情報発信　など



▼地域×協力隊
・地域との関係づくり
・地域資源、人材の発掘
・地域資源の利活用
・団体間の連携、横の関係づくり
・自主財源確保に向けた活動　など

▼行政×協力隊
・地域担当との連携
・活動支援
・業務、生活全般の相談対応
・物品、活動費の支援
・定住支援　など